

別府大学英語英文学会第四回大会報告

本年度は大会の準備が年度はじめの計画からかなり遅れたが、九月の評議会以来活発な討議を経て、評議員による、その遅れを取り戻すだけの活動が、精力的に行なわれた。各評議員の努力に改めて敬意を表したい。

大会は12月2日(土)午前10時から午後4時まで、午前中は五名の研究発表が、午後は本学講師ドリング先生と九州大学教授元田脩一先生の講演が行なわれた。特に元田先生の「アメリカ文学とゴシックロマンス」の講演は2時間以上に及んだが、参加者はほとんど席を立つものもなく、熱心に聴講した。

年ごとに卒業生の学会に対する関心が高まり、参加者の中には卒業生の顔がふえた。那賀泰彦氏は前日の準備に協力を惜しまず、又戸田龍二氏からは祝電を頂戴した。今後も卒業生諸氏の多くの参加と協力を希望する次第である。

＝研究発表＝

「緋文字」におけるホーソーンの宗教観

英文学科4年 佐藤久美子
ピアスの虚無的文学の背景

英文学科4年 増井 敏博
トーマス・ハーディの「帰郷」を読んで
—「ユースターシアの愛」—

英語科2年 速水 厚子
Thomas Hardy and His Background
本学助教授 沖 浩子

ジョージ・メレディスの喜劇精神

本学助教授 酒井健治郎

＝講演＝

Higher Education: A Western View

別府大学講師 J. R. Dring

アメリカ文学とゴシックロマンス

九州大学教授 元田 脩一

× × × ×

【研究室だより】

＜小山政憲先生英文学科主任教授に＞

従来も非常勤講師として英文学科の講義を担当していただいた大分大学教授小山政憲先生が、本年四月から、英文学科主任教授として教鞭を執られることに内定した。

＜アメリカ文学研究会＞

薬師寺淳子研究生を中心とする研究会が、毎水曜日午後1時より演習室で行なわれている。本年度は準備期間として読書会の形式だが、来年度からは英語英文学会の月例行事として講演会・発表会への発展が期待されている。

＜卒業生に＞

多くの卒業生に、この研究誌を配布したいと考えています。希望者は研究室宛申しでてください。